

共創の場形成支援プログラム 令和4年度スタートアップ創出/成長の促進支援 選定結果

分野 (採択・昇格年度)	拠点名称	代表機関	外部専門機関・参画機関	実施概要
共創分野 (令和4年度昇格)	Bio-Digital Transformation (バイオDX) 産学共創拠点	広島大学	<p>【外部専門機関】 地域経済活性化支援機構 (REVIC)</p> <p>【参画機関】 プラチナバイオ株式会社(PtBio)、ファイトリ ピッド・テクノロジーズ株式会社</p>	ゲノム編集及びDX技術を駆使した拠点の研究シーズを中心に、スタートアップの創出ならびに持続的な成長に向けて、広島大学が運営する「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム（社団法人化予定）」の出資により、インキュベーション機能と投資機能の双方を持つHCI（GP）を設立する。また、大学改革による産学官金一体となったスタートアップ創出・成長体制を強化する。設立後は、大学のURA等を複数人HCIに派遣し、外部専門機関の協力のもと、研究成果の事業化につなげることでできる経験と知見を有した人材の育成を目指す。また、ファンドの投資リターンの一部を広島大学に還元させ、持続的に社会実装を行えるイノベーションエコシステムの構築を目指す。
共創分野 (令和4年度昇格)	資源循環型共生社会実現に向けた 農水一体型サステナブル陸上養殖の グローバル拠点	琉球大学	<p>【外部専門機関】 沖縄I-Tイノベーション戦略センター</p> <p>【参画機関】 大阪工業大学、沖縄科学技術大学院大学</p>	本拠点は、食糧生産とエネルギーに関わる将来課題を世界の若者が主役として農業と水産業の垣根をとりさった新産業で解決することを目指している。その原動力となるのがスタートアップの創出と成長の促進で、開業率8.8%全国一位の沖縄県のスタートアップエコシステムの中核である沖縄I-Tイノベーション戦略センターを外部専門機関とし、参画機関の大阪工業大学と沖縄科学技術大学院大学が有するスタートアップ支援プログラムを活用することで本グローバル拠点のスタートアップ支援機能の強化を図る。また沖縄モデルを実現するシステム開発とビジネスモデル開発の研究開発課題の追加によりスタートアップの事例創出を加速させる。
共創分野 (令和3年度採択)	再生可能多糖類植物由来プラスチック による資源循環社会共創拠点	金沢大学	<p>【外部専門機関】 株式会社地域経済活性化支援機構 (REVIC)、 三井住友信託銀行株式会社、一般財団法人地域 未来創生機構、有限会社金沢大学ティ・エル・ オー (KUTLO)</p>	本拠点のコアテクノロジーである再生可能植物由来プラスチックの社会実装を、金沢大学発VCI（金沢大学100%出資の子会社（GP））を中心としたスタートアップエコシステムで加速させる。ここでは、外部専門機関の知見・ノウハウ・人材を取り入れ、本拠点の研究開発成果に対して事業化シーズ発掘、起業準備から起業初期段階へのステップアップを着実に達成する手厚い支援体制を構築する。さらに本学からのLP出資を含む新たなファンドを組成し、スタートアップ創出のための資金支援も行う。資源循環社会の実装を加速・達成し、GX（グリーントランスフォーメーション）の推進と人類のウェルビーイングに貢献する。
政策重点分野/ バイオ分野 (令和2年度採択)	世界モデルとなる自律成長型人材・技 術を育む総合健康産業都市拠点	国立循環器病 研究センター	<p>【外部専門機関】 Willsame株式会社、 バイオコミュニティ関西 (BioCK)</p> <p>【参画機関】 徳島大学、神戸大学</p>	本拠点は、バイオ研究のグローバル拠点として意欲のある研究者を集積し、企業や地方自治体と連携して社会的課題となっている疾患を克服できるレジリエントな社会を実現することを目指している。そのためには、研究成果の社会実装を目的に企業導出やスタートアップを創出することで社会還元を行うことが必要である。ところが、人事制度や人材・資金面、製造・販売を見据えた事業者、海外市場との連携不足等困難が多く、起業の機会が得にくい。こうした課題を克服するため、優れた外部専門機関の参加を得て、信頼を得てきた地域住民の参加を活かし、ローカルからグローバルまで結びついたイノベーションエコシステムの構築を目指す。